

ヒヨドリ等鳥類に対する被害防止対策について
(農林水産省「野生鳥獣被害防止マニュアル(鳥類編)」から抜粋)

1 鳥類に対する基本的な対策

もっとも確実な方法としては、防鳥ネットで作物を完全に覆う。

農地の規模が大きいなど、作物をネットで完全に覆うのが困難な場合は、音や視覚などの刺激による追い払い、テグスなどによる農地への侵入防止の利用などを組み合わせた総合的な対策を講じましょう。

2 鳥類を寄せつけない営農管理

(1) 集落周辺の環境整備

- 所有者が不明、あるいは誰も収穫せず放置された果樹等は、地域で合意の上できるだけ伐採する。

(2) 農地の管理

- 収穫しない野菜や果実は農地に残さず、また、既に被害を受けた農作物も、農地にそのまま放置せず、堆肥化、圃場へのすき込み等により適切に処理する。

3 侵入防止対策技術

(1) 防鳥ネット

農作物を完全に覆うことができれば、被害をなくすることができるため、コストはかかるが確実な対策である。

■防鳥ネット設置のポイント

- 網目が小さいほど防鳥効果は高いが、風等による影響が大きくなるため、被害を及ぼす鳥の種類を見極めて網目を選択する。

対象種別の網目選択の日安

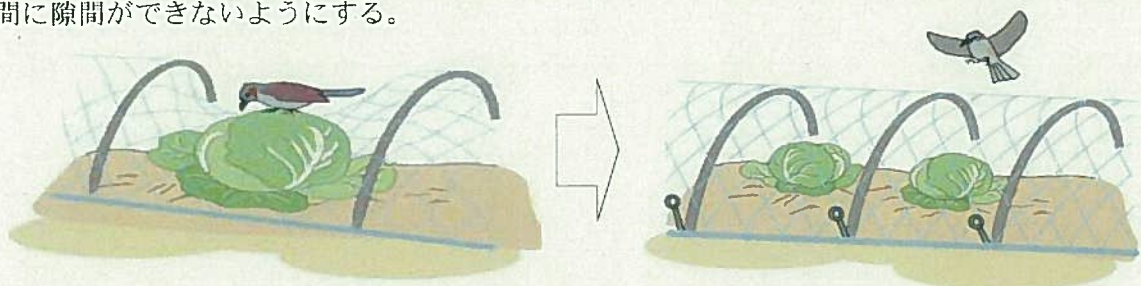
スズメ：20mm、ヒヨドリ・ムクドリ：30mm、カラス：75mm

- ネットと地面の間にわずかでも隙間があると、中に入り込んでしまうため、隙間ができないようにする。
- ネットの外側から被害を受けることもあるため、ネットと作物の間には十分な間隔をあける。

ア 畑でのネットの設置

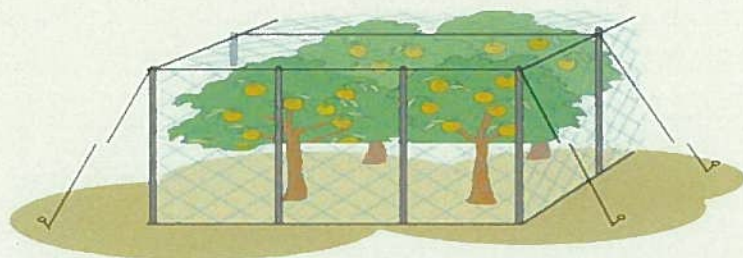
ネットの張りがゆるいと鳥の重みで垂れ下がり、被害が出てしまうので、ネットは緩みの無いようにしっかり張る。

ネットと地面の設置部分はめくり上がらないようにペグなどでしっかりと固定し、地面との間に隙間ができないようにする。



イ 果樹園でのネットの設置

上部のネットがたるまないように、支柱を設置したり支柱間にワイヤーを渡すなどが必要。



(2) テグス、糸、針金等

防鳥ネットのように完全に被害を防止することはできないが、カモ類やカラス類など大型の鳥類に対しては、農地の周りに糸状のものを張ることで、ある程度の侵入防止効果が期待できる。

■ 設置のポイント

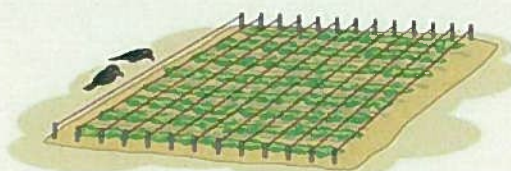
- テグスでなくとも、水糸のような丈夫な糸、針金等でもよい。
- 張る間隔は、カモ類やカラス類が翼を広げた長さ（約1 m）より狭くするとよい。
- 鳥類の侵入経路をみきわめ、侵入を妨害するように張る。

■ 対策の注意点

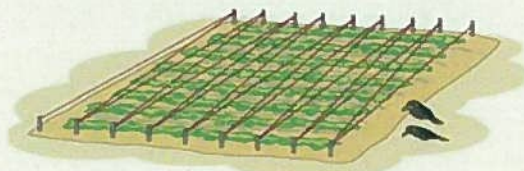
- ヒヨドリやスズメなどの小型の鳥類は、テグスなどの障害物を避けて飛翔してあまり効果がないので、他の対策を利用する。
- 完全な遮断資材ではないため、鳥類にとって餌として魅力的な作物を栽培している場合や、周辺に餌となるものがない場合には侵入されてしまう。

ア 畑での利用例

畑の周囲にテグスを結びつける杭などを設置し、杭と杭を結ぶようにテグスを張る。



平行にテグスを張る方法



斜めにもテグスを張る方法

イ 果樹園での利用例

- 果樹より少し高い位置から放射状に張る方法や、縦方向や斜め方向、格子状にテグスを張る方法などがある。
- 側面から歩いて侵入されやすいので、防鳥ネットを併用すると良い。

(3) 追い払い

古くから鳥類を追い払う目的で利用されてきた人を模した「案山子」、不規則な動きをする「吹き流し」や「防鳥テープ」、大きな音によって威嚇する「爆音機」や音と同時に模型を打ち上げる「複合型爆音機」などさまざまな器具が考案されて市販されているが、鳥類はこれらの器具に慣れてしまうという問題がある。

■ 追い払い器具類の限界

- 音、光、磁石、臭い、模型、目玉模様などを利用した様々な防鳥機器があり、死体をつるす等の方法も行われている。鳥類は目新しいものを警戒することから、一時的に防鳥効果があるが、いずれの刺激も鳥類にとって実害をもたらさないことから、永続的な効果はない。

■ 追い払い対策のポイント

- 鳥類の慣れをなるべく生じさせないために、以下のような工夫が必要である。
 - ・被害発生直前に設置し、使用後は放置せずに片付ける。
 - ・設置位置、器具の種類などを頻繁に変える。

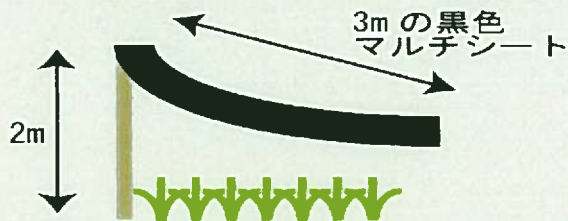
- ・他の被害防止対策と組み合わせる。

ア 案山子・マネキン

- 案山子が人間に似ているほど良い。
- 大豆播種期のハトによる被害に対しては、設置当初は半径20m程度で防鳥効果があったが、数日で慣れを生じる。

イ 旗・のぼり・吹き流し・防鳥テープ

- 長い竿の先に吹き流しや旗状の物を取り付けて、風になびかせたり、キラキラと反射するテープを作物の上に張る方法。
- 吹き流しは、ヒドリガモによる冬期のムギの被害対策には有効であった。
- 比較的安価であることから、費用対効果を吟味して使えば有用である。



2 mの支柱に3 mの黒色マルチシートをつるし、1 haあたり50本立て。
 笹を立てたり、テープを吹き流し状にする方法もある。

ウ 爆音機・複合型爆音機

- 爆音機は、プロパンガスを用いて爆発音を発生させる装置。複合型爆音機は、爆発音とともに打ち上がった板や旗が落ちてくる。
- 播種期の大豆や果樹園で半径数十mに効果があるが、慣れを生じる。
- 大きな音を発生するため、使用に際しては周囲への影響を考慮する必要がある。

エ 音声再生装置

- 鳥類が天敵などに捕まったときに発する声や合成音を発する装置。
- 利用期間が1～2週間であれば効果が期待できる場合もあるが、次第に慣れて効果がなくなるため、他の対策と組み合わせるなどの工夫が必要である。

オ エアソフトガン

- 被害を及ぼす鳥類が農地に現れたときに、農業者自らがその鳥類に向けて追い払いを行なう方法である。
- 人が直接的に威嚇を行うため、慣れの起こる可能性が少ない。
- これらの威嚇と銃器による捕獲を併用することによって、より効果を高めることができる。